

初期の数か月間: 若い飛行士の訓練

人吉海軍航空隊は、基地が運用を開始したときに設立されました。下は 16 歳の 10 代の兵士 6,000 名以上が、パイロットになることを夢見て入隊しました。しかし、利用可能な航空機と燃料が決定的に不足していたため、訓練計画は航空機のメンテナンスに変更され、多くの訓練生を失望させました。少数の飛行訓練を受けたものたちは、ミュージアムの玄関に実物大レプリカが展示されている九三式複葉機「赤とんぼ」で訓練を受けました。

大変だったバイオ燃料生産

ミュージアムの展示品には、ここで勤務した訓練生の制服や記録、絵日記などが含まれています。連合軍による日本への攻撃が激化し、飛行機がますます不足する中、人吉の若者たちは飛行機に関連した仕事に従事することはほとんどありませんでした。多くは、大きな松の根から油を生産するのを手伝うよう命じられました；これは、蒸留前に木材を細断しなければならぬという大変な仕事でした。この松油は既存の飛行機のエンジンには使えなかったものの、開発中のジェット機「橘花」に使われる予定でした；橘花は戦争が終結するわずか数日前の 1945 年 8 月 7 日、12 分間のみ飛行しました。